

一般質問



神田
議員

○各診療所の今後について

質 青島診療所の勤務体制については週2日火曜日と金曜日の昼間で、夜間は医師不在の状態だが、このことについて不安の声が上がっていないのか。

健康ほけん課長 常勤医師の確保、それから、夜間の急病に対する不安の声が届いている。

質 青島地区については、夜間の病気やけがの場合は船で救急搬送されている状況だと聞いているが、行政としてこの状態をどのように捉えているのか。

健康ほけん課長 特に夜間の救急について不安があることから、青島地区の皆様と今後協議の場等を設け、救急体制の充実を図る必要があると考えている。

質 青島の医師確保については期限を切ってやっていただきたいが、今後、医師確保をどのようにしていくか、と思われているのか。

市長 今後、市内への病院の進出等、医師が多数いる病院とどのように連携をとっていくか、あわせて、青島全体として安全・安心につながる対応を地域の皆様と十分に協議しながら必要な対応をとっていききたい。

質 福島、鷹島診療所の療養病床の介護保険施設等への転換の受け皿整備の進捗状況を伺う。

健康ほけん課長 整備方針を市の方で固めて、入院患者さんや地域への説明会を開催し整備方針を決定したいと考えている。

○JCHO松浦中央病院（仮称）について

質 JCHO病院開設に向け具体的な協議を進めているとのことだが、その協議内容を伺う。

市長 6月6日にJCHO本部に出向き、理事長ほか幹部の方々とお会いし、今後の対応について協議した。理事長からは、地域に根差した病院となるよう取り組みたいとの話があり、私からは、どのような病院として運営されるのか、内容についてJCHOから直接、市民に説明していただきたいとお話した。

質 将来的には各診療所の医師についても一手に引き受けていただくようなこともJCHO病院との協議の場に上げていただきたいと考えているがいかがか。

市長 医師の確保対策については、市独自での取り組みだけでは難しい状況にある。JCHO病院には松浦市地域医療の核となる医療機関としての役割を求めているところで、ご提案のように、各診療所の運営についての協力を求めていると考えている。

一般質問



宮本
議員

○行政視察案内に関する市長の考え方について

質 議員は行政視察で全国の自治体に視察研修に参るが、視察研修先の自治体の応対ぶりにより、その町のイメージが変わる。全国の自治体の中には、年間何百人も行政視察を受け入れているところもある。交流人口の拡大と行政や議会の質を向上させる意味からも、当市の行政視察の受入れ体制と内容の充実が必要と思われるが、行政視察案内についての市長の考えは。

市長 行政視察に丁寧に対応することは非常に必要だと考えている。今年度、市のホームページのリニューアルを進めており、この中で行政視察案内のコンテンツの充実も検討してまいりたい。ともだビジョンの中で、政策で人を呼び込む市役所づくりというのがある。松浦市がやる特徴的な政策を立案・実現し、全国から注目していただくことで行政視察を始め多くの視察を受け入れたい。

○電力移出県等交付金について

質 平成28年度と29年度の電力移出県等交付金は、県に幾らの要望件数を提出して、何件承認を受けたのか。

商工振興課長 平成28年度が9事業5億2650万9000円を要望し、承認が1事業2579万4000円で、平成29年度は、6事業1億9769万8000円を要望し、承認が1事業4600万円となっている。

質 県は、毎年、この電力移出県等交付金の中から、関東圏・関西圏での長崎県の特産品のPRに関する経費、水産奨励加工品の広報事業、三川内焼、波佐見焼等を出展・PRするための費用、商談事業に充当している。当市においても、赤潮被害等で水産関係者が厳しい中、地域振興策の一環として、旬サバ、旬アジ、フグ等のPR事業等にも電力移出県等交付金を確保してほしい。そこで、市長の電力移出県等交付金についての今後の対策は。

市長 電力移出県等交付金の使い道については県議時代に問題提起をしている。その時の県の答弁は、移出金を使った事業のルールがある。松浦市からはそのルールに基づく応募がなかったというものだったので、そのルールに基づくものをしっかりと提案すれば、採択も十分可能性があると思う。どうすればその事業を活用できるか、しっかりと内部で検討して、適切に対応していきたい。